



・ 主な内容

- みんなで取り組む課題・活動予定-----2
 - お知らせ・職場アンケートのお願い-----3
 - 事業団・高齢者運動交流集会の報告-----4
 - 日本高齢者大会の報告-----5
 - 相次ぐ熊被害に思う（寄稿）-----6
 - おすすめの1冊-----7
 - 京都の催事案内-----8
 - 行楽 宇治・木幡界隈-----9
 - 編集後記、まちがいさがしこたえ-----10

発行所

全日本建設交運一般労働組合 (建交労)

京都 事業団・高齢者部会

〒601-8103 京都市南区上鳥羽仏現寺町43番地

Tel 075-691-1007 Fax 671-1641

Eメール kenkourou@titan.ocn.ne.jp

発行日 毎月15日 一部30円

No.357 (2025年) 12月号



息子夫婦から頂いた秋桜に柿を添えて
コスモス

上林常哲

みんなで取り組む課題

新年度の第1回支部執行委員会は11月19日、11人の出席で行い、以下のとおり報告・討議しました。

1. 職場のこと、仲間のこと（自己紹介もかねて）

- 京都事業団・インフルエンザが流行。予防対策を。
- ソーシャル京都事業所・介護利用者にとつて年末年始は生活用品の買い物が大変な時期になってきた。
- ワークセンター・ホームレス支援施設に若い収容者がいるのを見ると、社会に対する矛盾を感じる。

2. この間の取り組みの振り返り

- ①第24回京都高齢者大会（10月18日㈯、ラボール京都）
- 支部より参加者3人、全体参加者のべ365人。
- ②祝園全国集会（10月19日㈰、府立けいはんな記念公園）
- 支部より2人、全体で2700人の集会。
- ③民主府政の会南区連絡会・キックオフ会議
- 11月7日(金)、来春の府知事選に向けた会の再開。
- ④第38回日本高齢者大会（11月11～12日、さいたま市）

3. 支部定期大会の振り返り

①参加状況（

- 代議員の当日出席17／19、執行部12／15。

- 来賓は、重村周治府本部委員長、森吉治府会議員。

- ②議案討論・議事運営その他

- 京都府知事選にかけて民主府政の会から挨拶を兼ねた選挙情勢報告。

4. 今後の取り組み

- ①建交労・組織拡大早朝駅前宣伝行動
- ②建交労全国部会・事業団高齢者介護ヘルパー運動交流集会

- ③建交労中央「春闘アンケート」支部独自「職場アンケート」
- ④南地区労の諸行事
- ⑤支部「新春のつどい」

- 来演は、中村隆雄さん（マジック）

- と洛北青年合唱団。

○時間を大幅に前倒して閉会。

○来年は大会発言を組織し、現場の現状などを報告しあうべき。

『仲間』（1月号）原稿募集

新春にふさわしい、楽しい紙面になるよう、皆さんのが投稿をお待ちしています。年内をめどに組合事務所までお寄せください。

《テーマ》 1. 年男、年女の紹介と抱負

2. わが家のお正月
3. お正月の過ごし方
4. 初夢・こんな夢をみたい、などなど

お知らせ

事業団で働くみんなのアンケート 職場アンケート にご協力ください！

建交労では例年「事業団などで働くみんなの要求アンケート」を取り組んでいます。そして今回も支部独自の「職場アンケート」にも取り組み、合わせて2種類を配布しています。

これらのアンケートにお寄せいただいたご意見は、各事業体の理事会との懇談会で、職場改善の意見交換を行ったり、国や自治体への要請などの、貴重な資料となります。ぜひ組合員の皆さんの状況をお書きください。

アンケート用紙と返信用封筒を同封していますので、早めにご回答いただき、ご投函ください。

※ソーシャルサービス協会京都事業所分会の方には「介護職場に働くみんなの要求アンケート」を配布しています。

2026年新春旗びらき

2026年1月14日(水曜日)午後2時半～4時

京都高齢者会館4階「ふれあいホール」

事業団で働く仲間の交流集会

1月22~23日 伊丹で開催



高木哲次部会長のあいさつ

交流集会は全国から80数名の参加で、伊丹市立スワンホールで開催されました。

1日目は、高木哲次部会長（伊丹市雇用福祉事業団理事長）の主催者あいさつ。前日に

11月22~23日、兵庫県伊丹市で建交労全国事業団・高齢者部会が主催の「第62回事業団・高齢者・介護ヘルパー運動交流集会」が行われ、支部から4名が参加しました。ここでは松永支部委員長の参加報告を掲載します。

「全国雇用福祉事業団協議会」の設立総会を終えたことが報告され、自らの事業団の出会い、事業団活動に身を投じ、活動する中、いま大きな意義と役割を実感していると発言。協議会設立を期に、さらなる前進へ、優れた活動に学び、知恵を出し合はずすめでていこうと語られました。

記念講演は明治学院大・河合克義教授「高齢者の仕事・生活の現実と生活保障の方向性」。「全世代型社会保障改革」という名の社会保障改悪が強行され、働くないと生活できない高齢者が急増し、「生涯現役」が望ましい生き方と流布されている。高齢者の暮らしの実態を明らかにし、要求運動を行い、国や自治体に施策を改善させるための資料を作ろうと呼びかけられました。

特別報告は、①青森中高年雇用事業団のとりくみ、②角田季代子さんの「どうにもならん人たち救つてくれ」③伊丹事業団のとりくみ。

その後「組合活動」「生活困窮者」

「事業団運営」の分科会が午後5時半まで行われました。

1日目終了後は、送迎バスで宝塚市の高台にある料亭「明月記」に向かい、眼下の夜景を見ながらの夕食交流会を楽しみました。

2日目は分科会を続行。私は「組合活動」に参加しました。前日、東京高齢者事業団・赤羽目さんの分科会にあたつての提起を受けて、参加者からの発言で交流しました。

分科会終了後ホールに戻つて全体集会。各分科会からの報告に続いて神谷事務局長から「記念講演、特別報告に学び、分科会での真剣な討議が行われた」とまとめられました。最後に高木部会長の音頭で「团结ガンバロー」を三唱して、閉会しました。

（支部委員長・松永雅明）

第38回日本高齢者大会に参加して

建交労京都支部執行委員長 松永雅明さん

11月11日から12日「日本高齢者大会 inさいたま」に参加してきました。会場は、埼玉県さいたま市大宮区の大宮ソニックシティビルと大ホール。

新しい街の会議場でした。

1日目は学習講座や分科会が行われました。「いま豊かさとは何かを問う」暉峻淑子・埼玉大名誉教授の講演のほか、「軍拡・企業本位と社会保障の危機」をはじめ10の学習講座と「高齢者のくらしと人権を守る地域の運動」をはじめ6つの分科会がありました。

私は、前半は「高齢者の就労と問題、求められる対策」(松丸和夫・中央大名誉教授)学習講座に参加。高齢社会対策大綱(2024年閣議決定)は「老後の生活は働いて支えろ、生活費は投資で蓄財しろ」と自己責任を押し付けるもの。医療、介

護が受けられないのは大きな人権侵害。憲法が保障する基本的人権が守られる社会保障制度を要求していくこう、とまとめられました。

後半の学習講座は「言葉の責任を考える」(藤川直也・東大大学院准教授)。「そんつもりはなかつた」

こういう言い訳で、言葉の責任は搖るがされる。誰でも言葉に責任が伴うのは当然。どんな姿勢で言葉、情報を見たかを学びました。

2日目は全体集会。「分断・対立から共感・連帯へ、築こう平和と人の尊厳」と題して、全国の仲間がつどい学び交流して活動の飛躍を、がスローガンに催しが行われました。オープニングは、太鼓集団「響」の「秩父の屋台囃子」。続いて300人で「いのちの歌」の大合唱ほかの文化行事で楽しみました。

記念講演は、元立教大教授・芝田英昭氏の「戦後80年・いのちの尊厳から平和を考える」と題して、社会保障の問題などわかりやすく講演。基調報告は中央実行委員会事務局長畠中久明氏。自民公明政権に代わり自民維新政権が誕生。高市首相は選挙で示された民意、金権政治ノー、消費税減税を無視。安保3文書の改定、社会保障改悪をすすめ、また暮らしの困難に有効な政策を打ち出せず。反動政治に抗して民主主義を守り、前進させる共同の取り組みを、と呼びかけました。

続いて、各団体からの1分間スピーチ。年金裁判と要求活動(年金者組合埼玉)、解雇の自由は許さない15年の闘い(JAL不当解雇撤回争議団)など7つの報告がありました。次回の開催地は大阪。近畿2府4県が担当と発表され、大会旗が引き継がれました。さいたま実行委員長のあいさつで、大会が成功したことを見認めて閉会しました。

雑感

相次ぐ熊被害に思う

ソーシャルサービス協会ワークセンター 鈴木美雪さん

今年は熊が人の生活圏に出没するケースが増え、人身被害も相次いでいます。

色々な専門家は、山にエサが不作（ドングリなど）だと評論していますが、それだけではないような気がします。専門家という人々は、現場も見ずに机上だけでもつともらしく語るので、腹が立ちます。私の（年寄りの）僻みでしようか？

全国的に熊の個体が増えているのだと思います。過

去何十年も保護した結果なのではと思います。というのは、熊の毛皮や内臓（熊胆ほか）

などの需要で乱獲があり、絶滅の危惧と判断されて、



2002年の「鳥獣保護管理法」でもヒグマとツキノワグマが保護鳥獣として指定されました。

そのため、自由に捕獲できなくなり、雌1頭が年に1～4頭を出産するとして、ネズミ算式に個体が増え、生存区域が拡大せざるを得ないことに至ったのだと思います。

テレビなどで見る熊は、まったく痩せてないでしょう。丸々太っているように見えるのは、私だけでしょうか？ 熊は雑食で、ドングリだけではなく、山菜や木の芽、昆虫や動物の死骸なども食べるそうです。

今年の長い猛暑日、熊や人間にも特別でしようが、だからと熊が人を襲ってはいけません。捕獲以外に方法はない気がすると私は思います。クマに襲われ、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

12月のまちがいさがし

2つの絵で違いが8カ所あります。
(答えは10ページ)





日本機関紙協会大阪府
本部『宣伝研究』が選
ぶ書籍を紹介します。



2025年11月
日本機関紙出版セ
ンター A5判144頁
本体1,400円

『歴史と対話 中国と戦争をしない
ための“記憶・平和友好の旅”』

石田あきら・本庄豊著

日中近現代史に向き合う

日本の首相による「台湾有事」発言をきっかけに日中関係が揺らいでいるが、そもそも日本の侵略戦争が問題の根底にあるのではないか。

本書では、中国への旅と対話で上海事変、重慶空襲、南京大虐殺、万人坑、柳条湖事件、長征など、中国の近現代史をたどる。中国の研究者らとも対談しているが、日本では学

校教育で近現代史が教えられていないことを思い知る。それが今の日本の世論に影響しているのではないか。日中間の往来が元に戻り、中国への旅にもっと出かけたい。目で見る経験が考え方を変えるのだから。



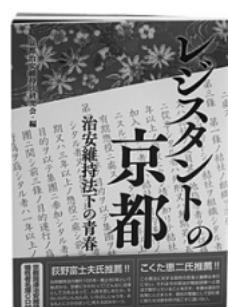
2025年9月
中公新書
300ページ
本体1,250円

『日本のバス問題』 佐藤信之著
公共交通として再生を模索

公共交通の最後の砦であるバス事業が全国的に危機に瀕している。減便、路線廃止が相次いでいる。誕生から高度成長期の隆盛、衰退、再生模索の今日までバスの歴史を振り返つたうえで、日本のバスの課題を洗いだし、将来を展望する。

自家用車の普及、民営化、人口減、人手不足、そして参入規制の緩和が労働条件の悪化、サービス低下、経

営破たんを招いている。競争から協調へと最近の再生の動きも紹介。住民主体の路線バスも生まれている。結局、公益事業に徹することが持続可能につながる。



2025年7月
日本機関紙出版セ
ンター A5判256頁
本体1,800円

『レジスタンントの京都 治安維持法 下の青春』 京都治安維持法研究会編

今も昔も学生たちでにぎわう京都の街だが、かつて戦争へと突き進む道に対して、反戦・抵抗に立ち上がつた多くの学生や若者たちがいた。しかし天皇制国家が作つた治安維持法が無慈悲に襲いかかり多くの悲劇が生まれた。

治安維持法制定100年の今年、掘り起こされた知られざるエピソードが、私たちを未来へとつないでいく。犠牲者名簿のCD付き。

京都の催事案内



有料行事を含む、イベント予定を拾つてみました。主催者の都合や天候等で、中止の場合があります。

1月1日(木)

元旦初のぼり／京都タワー
おうぶくちや

皇服茶／六波羅蜜寺

1月2日(金)

都七福神まいり／京都定期観光バス

松竹新喜劇「新春お年玉公演」／南座

今森光彦写真展・につぽんの里山を旅する
／美術館「えき」KYOTO (京都駅)

1月3日(土)

日展京都展／京都市美術館本館

前進座初春公演「出雲の阿国」／京都劇場

日常生活を彩る水彩展／京都市美術館別館

若菜節句祭／西院春日神社

小品盆栽フェア雅風展／みやこめつせ

京の冬の旅・60回記念セレモニー／京都駅

京都ナイフショリー／みやこめつせ

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

裸踊り／法界寺（伏見区日野西大道町）

小豆粥で初春を祝う会／妙心寺東林院

冬の夜の茶会「夜咄」／高台寺
よばなし

楊枝のお加持と弓引き初め／三十三間堂
やなぎ

冬灯廊／南丹市美山かやぶきの里

睦月のあれこれ Ⅱ歌舞伎Ⅱ

むつき

今年は邦画『国宝』が大当たり。これに伴い歌舞伎が大人気になったとか。あらすじは、任侠一家に生まれた主人公が、歌舞伎役者の家に引き取られ、芸道に生涯を捧げる激動の一代記を描いています。この映画のロケ地が、兵庫県豊岡市の芝居小屋「出石永楽館」でした。

劇団前進座初春公演「出雲の阿国」（1月4～11日）

出雲阿国は、戦国時代から江戸初期の女性芸能者。かぶき踊を創始したことで知られており、これが様々な変遷を経て、現在の歌舞伎とチンドン屋になつたという。

島根県の出雲大社の巫女であつたが、京都に出て人気となり、伏見城に参上して度々踊つた。当初は四条河原の仮設小屋であつたが、やがて北野天満宮を定舞台に興行した。江戸城でも芝居仕立ての阿国歌舞伎を踊つたが、その生涯は史料が少なく、よくわかつてはいない。

今回の「劇団前進座」の初春公演は、有吉佐和子の長編小説「出雲の阿国」を原作に、京都駅の京都劇場で1週間行われます。

「城一つ持たぬが天下一になつた」女性・阿国が、出遭い別れていく人々の、それぞれの思いと阿国歌舞伎が変わっていく様子を描写し、晩年は出雲に帰り、たたら鑪製鉄にかかる生涯の物語が演じられます。

（山川）

行楽

宇治・木幡界隈を散策

建交労京都支部OB 中村 崇さん

こはた

久世九条の会の「宇治の戦跡めぐり」に参加しました。集合場所の京都駅奈良線ホーム。始発駅なのでゆったり座っていたが、発車時間が近づくとぞろぞろ乗ってきて満員状態。大半が外国人。東福寺駅で少しすいて、稻荷駅で大半が下車。車両には数人の日本人のみ。参加者全員が「ビックリ顔」で笑ってしまいました。

一行は目的地・木幡駅で下車して、若干の説明のあと散策開始。少し歩いて「木幡緑道」と書かれた、木々が茂った道へ。旧陸軍宇治火薬製造所木幡分工場への引込線跡とのこと。線路跡地を宇治市が昭和58年（1983年）に歩行者・自転車専用道路として整備したものです。宇治火薬製造所は、明治29年（1896年）に開所し、拡張されて昭和3年（1928年）から戦時体制に突入。終戦後は閉鎖され、緑道には「陸軍用地」と刻まれた石柱とともに今も戦争を物語る貴重な遺跡となっています。



▲引込線略図



▲軍用地の碑



許波多神社

住宅地を通り抜けると許波多神社の鳥居が見えてきます。社伝によるると、大化元年（645年）皇極天皇が、見た夢をもとに中臣鎌足に命じて木幡荘に社殿を造営させたと書かれています。古いだけに色々の伝説があるようです。また明治8年、当時の兵部省がこの地域に「火薬貯蔵庫」建設のために、萬福寺とともに許波多神社の12万900平方尺の社領すべてを没収され、五ヶ庄古川に移転したため、現在では木幡と五ヶ庄の2カ所に分かれて許波多神社があります。神社側は今も強い不満を訴え、土地の返還を求めているとのことです。

そのあと黄檗まで歩き、宇治黄檗公園などの火薬貯蔵庫跡地を見て回りました。JR黄檗駅から帰路につきましたが、すいていた車両は稻荷駅で満員状態となりました。



▲京阪宇治線樋尻橋



昭和62年（1987年）の宇治市議会で「核兵器廃絶平和都市宣言」の理念と20世紀の過ちを繰り返さない決意のもとに「石柱を保存する」と記されました。



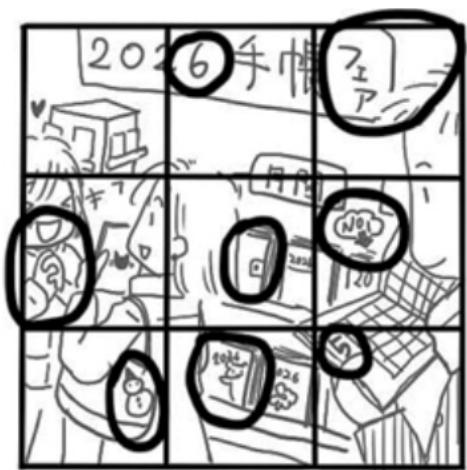
後編 集記

あつという間に今年も師走。暑く長い夏と短い秋。金閣寺の紅葉も、すぐ終わつた気がします。▼今年はインフルエンザが大流行。皆さん、予防接種は済ましたか？

葬儀を巡るあれこれ

私事で恐縮ですが、先月下旬に父が亡くなり、急な忌引きとなつて、現場の作業者交代など、ご迷惑をお掛けしました。おかげをもちまして、滞りなく見送ることができました。

▼小さい頃は、葬式といえど町家の通りに面して檻しきみが並び、玄関前に机を出して受付し、宮型靈柩車が来て、出棺に合わせてご飯茶碗を割る光景が普通でした。▼もう自宅での葬儀は珍しくなりました。数年前、どういう訳か伯母の葬儀を私の家で行う破目になり、片付けや掃除、仕出しの手配など、大変でした。▼またコ



まちがいさがしのこたえ

ロナ以降、仕事関係やご近所の儀礼的な弔問がない、家族葬が一般的とすることでした。なかには、お通夜も省略されるとか。▼家族葬向けの小規模な葬儀場が増えました。これは建設認可が容易で、近所のコンビニが突然、葬儀場に変わったといった事態が全国で生まれ、周辺住民とのトラブルをしばしば起こしている。

▼今回は私が喪主を引き受け、十数人の家族葬にしましたが、それでも結構なお金が要りました。また父はどこに何を仕舞つたかを伝えずに亡くなり、もう参つています。(や)